

生かされているってどう言う事

自分は他人の為に、他人は自分の為に生きていると言うか、生かされていると言うか、そういう物だと言われています。普段健康で病もケガもしなかったら、医者にお世話になる事は有りません。しかし医者は年中、患者を診ています。この見え方は極々当たり前の事ですね。人間が生きて行くのに必要な食べ物は、年中お買い物に出掛けその日の献立を考えたりして買っていますが、生活必需品以外は、毎日購入する物は凄く少ないです。一方同じ町会で、顔を合やす方は凄く多いですね。小生の場合朝晩犬の散歩に行きますので、近所のコンビニの経営者、接骨院の先生、電気屋さんの店長、クリーニング屋さん等色々な業種の同じ町会の方と必ず会います。会わない事はないですね。夜遅く帰宅して犬の散歩に行った時でも、誰かと必ず会います。これが日本人のコミュニティ ですよ。このコミュニティって一体何なのか考える事は、普通は考えませんね。でもこのコミュニティが崩壊しつつ有る事は、日本人全員が何となく解っている様に小生は思えます。

ところが何もしないですよ。何故何もしないか、それとも何もする事が解らないのか、それとも何もする気持ちが沸かないのか、この今の日本人の心の中は全然解りません。しかし1週間、病気がケガで入院すると、自分の立場が凄く解りますよ。世の中全体に生かされているので有って、決して生きているのではないと言う事を実感します。昨年小生も目の病で僅か1週間入院しただけで、凄く感じました。これが日本人の心『世間に生かされている』こそ、世界で一番優秀な心だと思わずにはいられせん。

ところで昨年大阪は橋本新市長が誕生し、新しい取り組みをしようとしています。これって凄く新しいことなんでしょうか。世の中は日本だけで世界が廻っているのでは有りません。地球の中での日本人も一員ですが、日本人の為に地球があるのではない事は、誰でも解ると思います。世界中が凄いスピードで変化をしていく中で、日本だけが何か取り残されている様に思うのは小生だけでしょうか。

そうかと言って日本人の素晴らしい心はまだまだ多く残り、伝わっています。

年末に石川県和倉温泉の有名な加賀屋旅館に1泊2日の日程で体の手入れに出掛けました。家内が足の爪が少し引っ掛かるから、お父さん爪切り、持って来ていませんか、という家族の話を旅館の仲居さんが小耳に挟み直ぐ爪切りを持ってきてくれました。又布団を敷く時、枕の交換を頼みましたが、4種類の枕を持ってきてくれました。そして家族が一番体に合う枕にしました。

以上の仲居さんのサービス、もてなしは、宿泊料金が高いから当たり前では決してないのです。

これこそが日本人固有の考え方『あらゆる方たちに助けられて世間に生かされている証拠なのです。』

昨年3月11日の東日本大震災でまだ数多くの日本人が避難していますしもう生まれ故郷の土地に戻れないという方は何万人もいると聞いています。そんな日本国内の状況は、小生は経験していませんが、戦前の第二次世界大戦中と同じ様な状況ではないでしょうか。我々人間の想像を超える天災はこれからも襲ってくるでしょう。日本人全体が、少し自分の我がままを辛抱して生きて行ければ、今の様な閉塞状況から脱出で来ると信じていますしそのような年にするように頑張りたいと思います。



加賀屋旅館

嬉しい御案内を頂きました。

FAX送信御案内

宛先 服部新樹 御中 服部新樹 様

発信日 平成 24年 1 月 8 日
〒342-0053 埼玉県吉川市関 186
有限会社 木工房シン
Tel 048-981-0167 Fax 048-981-6678
http://www.m-shin.jp/
E-mail shin@m-shin.jp
発信者 高橋 紘生

送信枚数：本状を含めて 1 枚

P. 01/01 毎度お引き立て賜り有り難うございます。
下記に送信致します件宜しくお願い申し上げます。

用 件

2012年 1月 8日(日) 12:50

御礼

毎号 服部新樹を御送符くださり
ありがとうございます。

今回の 木に才能が-----

水生、10才の頃より木工、工作を始め
現在に至っているのが-----この意味は、
考えて、見もしませんでした。

素成をより無駄を出さず、よりよかす。
物造りも、今迄以上に、当社の工にセト
として、覚悟した次第です。本当に、
素晴らしい課ありがとうございます。(18年生の先輩の)。御礼です。

(17)木工房シン

前のページは服部新聞正月号で取り上げた記事『材』についての小生の考え方と言うかイデオロギーマイみたいな物に関東の高橋様からお便りを頂いたのですが、購読者の方の感想はこれだけでは有りません。京都の材木屋で私の先生でも有る吉川木材の社長も電話で材木の才能についての小生の考え方に、凄いとってお電話頂きました。凄く嬉しく思います。

この木の才能について深く考える様になったきっかけは、有る木の才能を木屋の立場を離れて考えることでした。その具体的な樹種はカツラ材です。

カツラ材は北海道産広葉樹の仲間です。特殊な特徴も兼ね備えている樹種です。漆の塗りが良く、しかも彫刻が可能で、そして温かみも有り、以前は大径原木も多く有りました。しかし最近資源が枯渇し4~5年くらい昔と比較すると価格は3倍になっています。そのカツラ材とタモ・ナラとどちらが木の価値が上なのかを考える事でした。

我々木屋は、ツキ板に多く使えるか、板目・柾目のツキ板になるかと言う人間界の木に対する勝手な価値観で木の判断をして来ましたが、これからも、この見方『ツキ板に多く使えるか？否？』で判断をして行って良いのかと言う疑問に小生はぶち当たっています。この疑問をそう簡単に解決してくれるとは思いませんが意識して木に携わる事が大事だと感じています。

ところで大阪の木材連合会の有る方の発言『木材価格は1立方当り1万円でも国民の大多数が、まだ高いと思っている。原因は木材関係者の怠慢かもしれない。又林業の厳しい状況は、林道整備にあると思う。山を守るため、早期に整備を進める必要がある。』に小生は、何にも解っていないなと感じました。と言うのは、人工林の杉・桧はこの方の言うことは正しいかも知れませんが、人工林ばかりの日本国内の森林にしてしまった反省に一言もないのは、凄く残念です。今からでも遅くないのです少しでも健全な森林『混合林→生態系で針葉樹と広葉樹は育つ環境は勝手に決まる』作りを始める必要が有ります。仮に先々100年掛かろうが200年かかろうが昔の健全な森林に戻す行動を始めなければ、多分10年以内に我々木に携わっている業者の運命は無いと思います。

お金の為に仕事をしていたらここまで材木が好きになれません。

小生はお金の為に仕事をしていません。て書いたら皆様は嘘だと言う方が大半かも知れませんが、お金を第一に考えて仕事をした事は、父親が亡くなって以降一度も有りません。亡き父親が残してくれた財産は私が材木を好きにしてくれた事以外にないと思います。

服部商店の大事なお客様を守る為に服部雅章が出来る事は、仕入先に良い材料を分けて頂く以外ないのです。その為に、清くお支払いをする事は当たり前なのです。仕入先とお得意様どちらが大事ですかとたまに言われるのですが、その質問は愚問です。仕入先とお得意様はその中に服部商店が入るべき何か具体的な意義が有るから3社とも存在出来るのであって、もしただの流通だけなら当然服部商店は外される立場になるであろうと思います。私が何のために頑張っているのかは、多分昨年までは、亡き父親との競争で有ったと思います。亡き父と何の競争をしているかと言えば、どちらの方が世間に対して木を触る立場の人間として貢献しているかの競争だろうと思います。そしてその尺度は、服部商店のイデオロギーマイの対立かも知れませんが、しかしもう過去のイデオロギーマイ『父親の場合カツラ材の服部商店』に左右されない信念が、少しずつ小生に芽生えかけています。樹種の服部商店と言う言い方ではなく、『物売りからの脱却・無垢の服部商店を目指す』が自分の役目だと考えています。

我々プロの木に携わる人間の仕事

私はプロの木に携わる人間です。昨年の12月に金属関係の方がお見えになり小生に相談に来られま

した。そしてその方の悩み事の解決の一つの方法を伝授しましたが、何故か納得をしていただけなかったみたいです。それは有る優秀なメーカー様を紹介したのですが、それ以外の所も勝手に、滅多やたらに電話され訪問されていると聞いています。小生は弊社に来て頂いた方のライバルが何処で、その会社の能力がどの程度で、その仕入先の能力がどの程度で、それを仮に国内で作る場合何処で作るのが一番ベターなのか等々を把握しご紹介したのですが、何も解らない金属屋さんが国内で右往左往しても、決して良い答えと言うかヒントも見つからないと思います。国内の特に木に携わるメーカーの方が大幅に減っていることを第一に考えると我々プロの言う事をまず聞いてから行動する判断をして欲しいと凄く思います。

困難を極める広葉樹原木の仕入れ

昨年9月22日から始まった今期の国内産広葉樹原木のシーズンは佳境に入りました。出品材も順調に材が出てきていますが、何せ昨年比で良質材の確保は困難を極めています。特に日本固有の樹種の中でセン・カツラ・マカバは昨年比30%~50%近く値上がりし、各方面のお客様にご迷惑を掛けています。上記3樹種以外の樹種も昨年比で凄く径が細くなっています。(40センチクラスが36センチ位に約10%細くなってきています。目が荒くなってきています。)又ロシア産広葉樹材(ナラ・タモ原木)は世界的に景気後退局面に有る為伐採数量が相当減っていると聞いています。昨年は例年に較べて遅れて12月に日本にロシア材の第1船が入りましたが、今シーズンは1月になっても入荷していません。2月中旬に入ってくると聞いています。



上記の写真は今年の旭川において開催されるポスターカレンダーです。その右に写っているのが次のページのセン原木の立ち木写真です。見事なセンです。東京大学・北海道演習林材の生産材です。



NO5097 長さ2.8メートル 末口 88センチ (元1番玉)



NO 5119 長さ6メートル 末口 82センチ (2番玉)

2本とも入札に参加しました。元1番玉の2.8メートル末口88センチの原木は10%値段を上げて入札していたら取れましたが、そこまでの入札の腹は出来ませんでした。仮に購入しても乾燥期間が最低3年掛かります。又他の材(アフリカ材・タモ材・他の樹種の剥ぎ材)と比較したとき、日本固有の樹種のセン1枚板で材木屋的には値打ちが有ると思いますが、この原木で製材出来る天板具体的に言えば、長さ2800ミリ厚み70ミリ巾800ミリが1枚最低服部商店の出荷価格が300,000円で販売出

来てやっと採算が取れるのです。ここに加工賃・脚等の別の部材が乗せられ最終消費者の販売価格は恐らく100万円近くになると思います。ここまでの販売価格になると予想されますと先ほど小生が述べた、入札の腹『乾燥道中割れないか。又耳付の巾広材しか採算が合わないので、耳付きに全てを製材した時のリスク→ベニヤが全て★★★★所謂フォースターになったせいで耳部分にシラタキ食い虫が付きやすい環境になっています。そうならないようにする方法はどうすべきか』が出来ていませんでした。又乾燥機を持っていけば約1年間ゆっくと自然乾燥し、その後約3ヶ月ゆっくと人工乾燥機に入れ、そして又3ヶ月間自然に戻す乾燥を施し、耳部分にシラタキ食い虫が入らない様に透明のラップでまいてしまえば、高い価格で上記のセン原木(2.8メートル88センチの原木)は手に入れる事は出来たと思います。しかしこれだけ多くの手間と新しい設備投資までして購入しても、買って頂けるお客様がいなければ購入しても仕方が無いと思います。上記5097番買い付け業者は、製材し生の状態で市に出荷し販売する業者です。服部新聞の購読者でここまで言えば解る方は多分10人位はいると思います。もしその市で購入できた場合小生まで幾ら位で買えたのか是非教えて頂きたいと思います。又NO5119の買い付け業者の方は、日本の最高の建築(最近では京都の迎賓館内装工事を請け負った方です。)工事をされる方です。世界の著名な方がお見えになる施設には、日本の最高の材木が使われるのは極当たり前の事だと思います。今後こんな見事なセン原木と会える事は今後二度とない事だと思います。見せて頂いて神々しさを味わえた感謝を生産した東京大学北海道演習林の方々に申したいと思います。ありがとうございます。

ところで上記記事以外の広葉樹原木の相場の話をもっと具体的にしますと、言うより服部雅章流の話にさせて下さい。小生の考え方は確かに極一部の良質材の価格は高いですが、それは多分全体の5%と残りの95%の対比だと思います。その例を見て下さい。以下の写真はクルミ材原木です。



NO 2429 長さ2.4メートル末口42センチ服部商店落札



NO 2707 長さ4メートル末口40センチ九州のツキ板業者落札

NO2429 の原木と NO2707 の原木の価格差は約 2 倍後者の方が高いです。しかしそんなに価格差が有るとはプロの材木屋でも見方が分かれると思いますが、しかしこの 2 本は多分全体のクルミ原木の約 5%を占める良質材の原木の話です。今回クルミ原木は全体で 193 本出品されていました。上記程度の原木は約 10 本程度有ったと思います。この 10 本と残りの 180 本との価格差は約 5 倍位だと思います。この 10 本はそれだけ値打ちが有るのですが下材との価格差を比べ考えると高品質材の約 5%の良質材は、本当にお買い得商品だと私は思います。この話はクルミだけに限定される話では有りません。全ての北海道旭川にて開催されて出品されている広葉樹原木に該当する話しです。

『5%しかない良質材は残り 95%が何とか販売されて行く広葉樹原木の流通のお陰で成り立っているのです。』5%の原木に感謝をするのではなく全体の原木に感謝しなければ我々の将来は無いと思います。

木の値段って解らない

NO 1118 服部商店落札 北海道 士別産 長さ4メートル66センチ





NO1118 と NO5156 の写真は両方ともカツラ原木の写真です。単価は服部商店が落札したほうが少し安いですがその話をする前に市の雰囲気の話をして頂きます。カツラの相場が、市開始直後から異常な高単価を付けていました。先ほどの5%と95%の話では有りませんが、下材の価格も高値安定で推移し又、平素はカツラを購入しない方が、驚く値段を提示する本当に異常な雰囲気でした。小生の下見価格を約50%近く高単価で他の業者が買われる状況でした。そしてNO1118番のカツラ原木が今回の最高の原木と判断したので、ライバル業者の落札価格を見ながら小生の下見価格を15%上げて入札しました。何とか取れました。しかしこの事が最後に市に出品されていた今回の2番目に良いと判断していたNO5116番を購入した神奈川県の業者の心に火をつけたのと思います。立方当たりの価格は66センチの原木と46センチの原木を比較するとシラタの多少はあっても30%位細い方が安いのが当たり前です。細い材は幾ら良く出来てもサイズの巾の大きな物は絶対に取れません。その点66センチの方が楽に巾が広い物が取れます。がこんな事は完全に無視してきたと思います。9月から始まった広葉樹シーズンですが、ことカツラに関してはほぼ12月の市までは、5%の良質材の約3分の2は買い付けが成功出来たと思いますが、それが最後の最後に神奈川県の業者の心に火をつけたのでしょう。仕方有りません。

第11回勉強会と第五回木材展示即売会の延期の御知らせ

2012年2月18日(土曜日)午前10時からの日程で、国産のサクラ材とアメリカ産のブラックチェリー材の製材を見比べてと言う企画を考え進めています。原木の仕入れが昨年よりはるかに困難になっています。従って予定通り開催できる目途がたらず延期したいと思います。

企画内容『サクラもしくはシュウリサクラの製材を見て頂き、建築士さんがサクラと図面に書いているマカバ材とはどんな色をしているか、本当の北海道のサクラはどんな色をしているのか、等の事を知っていただく企画です。』は出来るだけ変えないようにして3月17日(第三土曜日)に開催したいと思います。再度のご案内を2月の服部新聞にてさせていただきますので宜しく御願ひ致します。